



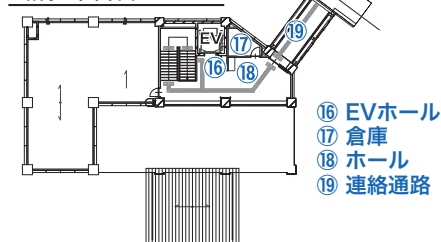
## 宮古市田老総合事務所

施工地／岩手県宮古市田老一丁目内  
 竣工年月／2020年4月28日  
 敷地面積／621.91㎡ 延床面積／566.28㎡  
 構造／鉄筋コンクリート造、一部木造  
 駐車場／10台

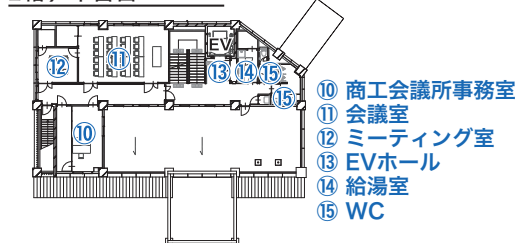
「森・川・海」とひとが調和し共生する岩手県宮古市は、本州最東端に位置する市であり、本州一の鮭の水揚げ量を誇る「鮭のまち」でもあります。宮古市田老地区はかつて明治や昭和の三陸津波で被害を受けてきたため、日本一ともいわれる防潮堤を築いた「津波防災のまち」として知られていましたが、2011年3月11日に発生した東日本大震災で再び津波に襲われ、大きな被害を受けました。現在、宮古市は震災を機に整備された新たな交通ネットワーク、地域防災のための基盤など、取り巻く環境は大きく変化しております。

永らく地域の方々の生活を支えてきた田老総合事務所は、既存庁舎の老朽化と耐震強度不足の問題を解決するため、移転新築し、三陸鉄道リアス線41番目の駅として誕生した「新田老駅」とともに華々しく開所いたしました。本施設には、田老保健センターが田老公民館から移転し、新施設一体となって地域の安全・安心な暮らしとともに市民の健康を支える拠点として誕生いたしました。

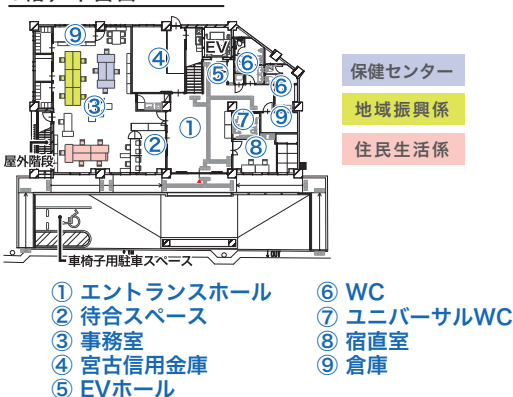
3階 / 平面図



2階 / 平面図



1階 / 平面図



## 利便性を高めたぬくもりの空間

本施設は、住民サービス関連の窓口を1階にまとめることでわかりやすい移動動線とし、高齢者・障がい者の方も利用しやすいようバリアフリー化に努めました。また環境負荷の低減に配慮し、全館LED照明、人感センサーによる節電、節水型衛生器具の採用などにより、省エネルギー・省資源化を図りました。

三陸鉄道リアス線「新田老駅」へもエレベーターにより3階から連絡通路を通じて、利用者様が雨に濡れずに駅のホームへ移動できるような計画としました。本施設は行政・福祉・駅の3つの用途が複合された施設となっており、駅へのアクセス動線並びにトイレ等の共用エリアと、行政執務空間となる事務室等のエリアは使用される時間帯が異なるため、管理に支障のないよう明確にエリア分けをした空間構成となっております。

多くの皆さまの目に触れる施設入り口や、電車の待合室として利用される3階ホール部分には、可能な限り地域産材（主にスギ材）を使用しており、木のぬくもりと親しみ溢れる空間とするとともに、地域の産業振興に寄与しております。

